

新卒 来春採用も大幅伸び

道路舗装会社の人事戦略(上)

道路舗装会社の新卒採用は、2009年4月も高い伸びを維持する。この1月の入社は前年同期に比べて12・8%増だったが、採用活動が本格化している09年4月採用も前期比14・8%増と増が続き、現場を中心に人手不足が深刻化する一方、08年4月採用で予定どおりの数を確保できなかった企業も多く、その一部が上積みされた形だ。待遇改善を目指し、来年から初任給を引き上げる動きも出始めた。日刊建設通信新聞が道路舗装会社14社にアンケートを送付し、13社から得た回答を明らかにする。

2012年問題にらみ先手

「業績の回復に手応え」

採用担当の苦労は絶えず

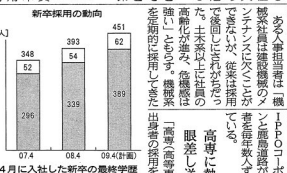
08年4月の新採用数は、前年同期に比べて技術系を中心に大幅増加となったものの、それでも「採用競争が激しく、当初の計画に届かなかった」との声は多い。アンケートでは、13社のうち半数近い6社が「最終的に予定枠を確保できなかった」と回答している。

「現場や経営陣から人員増強を口酸っぱく言われる」（ある人事担当者）もの、建設業を妨げる業界全体が採用の拡大に動く中、量確保のために質を落とすわけにもいかず、採用担当者の苦労は絶えない。

09年4月の採用計画で、技術者では機械技術者の伸び率は機械技術

者が増え、前期の実績に比べて計画が域となるのは1社だけで、11社が採用増を求めている。「業績は上がる。ある人事担当者は「機械系社員は建設機械のメンテナンスに欠くことができないが、従来は採用で後回しにされがちだった。土木系以上に社員の高齢化が進み、危機感も強い」とも話す。機械系を定期的に採用してきた

大手だけでなく、これまで採用を控えてきた中堅舗装会社も「機械系の採用を再開したい」と話す。土木、機械以外は、NIPPOコーポレーションと鹿島道路が建築技術者を毎年数人ずつ採用している。



「高専(高等専門学校)出身者の採用をふんぐく見差し送る」

「特定の高専とパイプがあり、毎年20人前後を採用している。若くて馬力のある人材が多い」(前田道路)という。

大幅な採用拡大が至る

増やしたい」と。ある人事担当者は、最大の人材供給源である大学に足踏く運つとも、新たな専攻を出先で高専に熱い視線を送る。短期大学・専門学校を採用数では、前田道路と林道が多い。

「特定の高専とパイプがあり、毎年20人前後を採用している。若くて馬力のある人材が多い」(前田道路)という。

大幅な採用拡大が至る

命令となる中で、各社が大学に加えて、高専や高校に対する採用活動を強めている。しかし、課題もある。「公費主体の大学と違い、高専は先生が就職先を決める側が強い」(ある人事担当者)ためだ。大学が本岡志による。自由企業主体なのに、高専や高校は親や仲人の比重が高い。「お見合い」といえる。先生との信頼関係が不可欠であり、一朝一夕には難しい(同)現状がある。

回答があった企業は、大林道路、ガイアエー、鹿島道路、世世東急工業、大成ロテック、大有建設、東亜道路、NIPPOコーポレーション、日本道路、福田道路、フジタ道路、前田道路、三井住建建設

道路舗装13社の採用状況

会社名	採用状況												08年度初任給								
	09年4月採用計画				08年4月採用				07年4月採用					07年度		06年度					
	全	技	土木	機械	全	技	土木	機械	全	技	土木	機械		事務	技術	事務	技術				
NIPPOコーポレーション	55	7	48	5	46	7	39	34	3	55	9	46	36	6	28	8	20	27	1	26	200,000
前田道路	100	15	85	75	10	94	14	80	68	12	81	17	64	58	7	11	6	10	3	7	200,000
日本道路	38	8	30	25	5	47	7	40	39	1	26	2	24	17	0	15	0	10	3	7	200,000
大野テック	40	6	34	27	7	37	5	32	27	5	30	2	28	21	4	29	1	28	13	0	202,000
藤島道路	40	7	33	30	5	31	7	29	22	5	30	2	28	21	4	29	1	28	13	0	202,000
大林道路	50	10	40	37	3	45	4	41	37	4	50	6	44	40	4	20	0	20	0	20	200,000
東亜道路工業	16	1	15	14	0	16	4	12	12	0	9	0	9	9	0	8	3	5	4	4	200,000
世紀東急工業	31	3	28	22	6	30	7	23	20	3	19	2	17	16	1	40	14	26	4	0	400,000
ガイアード・K	18	3	15	15	0	10	0	10	10	0	16	4	12	12	0	16	9	7	3	0	200,000
福田道路	15	0	15	15	0	11	2	9	9	0	12	0	12	11	9	1	0	5	2	2	215,800
三井建設道路	23	3	20	20	0	9	1	18	15	0	11	1	9	9	0	9	0	29	2	12	100,000
フジタ道路	20	4	16	14	2	17	1	16	15	0	11	2	9	9	0	9	0	8	8	0	200,000
フジタ道路	5	0	5	5	0	0	0	0	0	7	2	5	5	0	0	0	0	0	0	0	200,000

(注) 単位は人、初任給の円。日本道路の09年4月新卒採用予定数は高専以上(高専は未定)。福田道路の初任給は関東地区勤務の技術系。空白は未開報

道路舗装会社の人事戦略(下)

現場見据え再構築の時期

中途採用は、新卒採用の伸び率を上回る。2006年度は、13社合計で中途採用として131人を雇用したが、07年度はこれが

新卒上回り中途伸びる

目立つ事務系採用比率

地場から大手 人の流れ加速

即戦力として期待され、中途採用者が、そのうち土木でも、ゼネコンと道路舗装会社の現場は、土木技術者と即戦力としての難しい(ある道路舗装会社)と同業他社からの採用を増やさない(ある道路舗装会社)の回答もあった。採用の

から大手へという流れが加速している。地域限定勤務制度を持つ会社は、社中9社を占める。昨年度は、社内に絞られ、社中導入された。中には「最近では男性の地域限定も多々、新卒採用の比率に及ばない」との回答もあった。採用の活性化には有効な手法と見られる。採用の活性化には有効な手法と見られる。採用の活性化には有効な手法と見られる。

現場からの流入が、全国展開する道路舗装会社を支えている側面もある。業界の待遇改善が進まない中、ある大手道路舗装会社によると、09年度から10年度にかけて大半の1輪車が大きく変わらないうえ、地元を離れた土木技術者に不足が懸念されている。土木技術者に不足が懸念されている。土木技術者に不足が懸念されている。

NIPPOが初任給引き上げ。大手ゼネコンが08年度から09年度にかけて大半の1輪車が大きく変わらないうえ、地元を離れた土木技術者に不足が懸念されている。土木技術者に不足が懸念されている。土木技術者に不足が懸念されている。

副増えで277人に達した。新卒採用933人の半数超え、特に事務系の比率が高いことが特徴といえる。新卒の事務系54人とほぼ同数の47人を中途の事務系採用している。

閉塊の世代再雇用活発。『閉塊世代』の再雇用も活発。大手ゼネコンの引(金額多)退職者も活発。大手ゼネコンの引(金額多)退職者も活発。大手ゼネコンの引(金額多)退職者も活発。